

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式

論述式・記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

I・IIがアジア史中心, III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。

その他トピックス

Iでは, 300字論述では初めて前近代の東南アジア史が出題され, 大学受験科 基礎シリーズ『世界史 論述』第3・4講 [2] Bの論述問題がズバリの。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	マラッカ王国の歴史	15世紀～16世紀初頭のマラッカ王国の歴史について, 外部勢力との政治的・経済的關係および周辺地域のイスラーム化に与えた影響に言及しつつ説明する300字論述。周辺地域のイスラーム化に与えた影響について, アチェ王国やバンテン王国など具体的事例に言及できたかがポイント。	やや難
II	A 記述	歴史的「シリア」	前8世紀～戦後の歴史的「シリア」をテーマとした問題で, 古代オリエント史や戦間期までのイスラーム史を, 政治史中心に問う。問(5)のようにティグリス川とユーフラテス川を区別させる問題は, 2010年や2003年にも出題されている。	標準
	B 記述	中国の人口	明から現在までの中国の人口をテーマに, その時期の中国の政治・社会経済・文化を幅広く問う問題。北京遷都前の清の都の当時の名称「盛京」を問う(23)がやや難しい。問(20)「保甲法」は何を問われているのか迷った受験生が多かっただろう。	標準
III	論述	民主政アテネと共和政ローマの政治	ペルシア戦争以降のアテネ, 前4世紀～前3世紀のローマの, 国政の中心を担った機関とその構成員の実態を説明する300字論述。「両者の違い」にどこまで留意できたかがポイント。	やや難
IV	A 記述 論述	ヨーロッパにおける大学の誕生と発展	中世ヨーロッパにおける大学の誕生から, その後の発展をテーマに, 中世～19世紀のヨーロッパの政治・文化を中心に問う問題。(7)(イ)は, 全体の中で唯一の小論述問題。	標準
	B 記述	石炭が近代ヨーロッパの歴史に与えた影響	石炭が歴史に与えた影響について, 産業革命期から現在までのヨーロッパをテーマに, 当該時期の政治・社会経済を中心に問う問題。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年, 記述問題においてなかなか手強い問題が見られるようになってきているが, 全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので, 教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けよう。そして, 今年は激減していたものの例年は複数出題される小論述問題を含め, 論述問題の出来が合否を左右するだけに, 普段の学習のなかで, 「歴史事象」の因果関係の理解に力点を置いて, 「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また, 中国史やイスラーム史, 古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので, 京都大学の過去問の研究を進めておくことは, 有効な学習対策となるだろう。